

(人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

『ヒト中枢神経系の機能解剖を理解する基盤としてのMRI データベースの構築研究』

本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【対象となる方】

2001年4月以降2024年1月までに国立精神・神経医療研究センター(NCNP)病院で病理解剖され、NCNPブレインバンクでの剖検検体の保管および研究使用に関して同意された方のうち、

- ・パーキンソニズムを呈する症例15例
- ・認知機能低下を示す症例15例
- ・中枢神経系に萎縮を示す症例15例
- ・正常対照者15例

を対象とします。

【研究期間】

研究実施許可受領後から2026年11月30日まで

【研究代表者】 花川 隆 (京都大学大学院医学研究科脳統合イメージング分野)

【研究責任者】 高尾 昌樹 (国立精神・神経医療研究センター病院 臨床検査部)

【試料・情報の利用目的及び利用方法】

本研究は、花川がNCNPで推進していた研究「安静時機能結合MRIによる神経疾患の病態解明」と京都大学で現在実施中の研究「Parkinson病及びAlzheimer病デメンジョンを対象とした包括的神経画像研究」を進展させ、特定の精神・神経疾患のみならず健常人も広く対象とするMRIデータベースの構築研究の一部です。この研究においては、7テスラ超高磁場MRIによって被験者あるいは死後脳の撮像を行い、従来のMRIでは困難であった皮質内層構造や脳幹を高精度で描写します。この脳画像と病理学的所見、生前の臨床評価尺度を結び付け、データベースを構築します。本研究は、MRI技術の進歩とMRIを用いた精神・神経疾患の病態解明に結びつくと期待されます。

【利用又は提供する試料・情報等】

個人情報を含まない組織標本(ホルマリン固定脳、パラフィンブロック、凍結標本、凍結脳標本)を下記の数量で。

- ・パーキンソニズムを呈する症例15例

- ・認知機能低下を示す症例15例
- ・中枢神経系に萎縮を示す症例15例
- ・健常者15例

情報：生前のカルテ情報(年齢、性別、臨床診断名、病歴、画像データ、電気生理学的データ、質問紙票情報、心理テストデータ、認知課題データなど)および病理解剖所見

【共同研究機関】

京都大学大学院医学研究科脳統合イメージング分野 花川 隆 (研究代表者)

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

所属 病院 臨床検査部 病理検査室 氏名 高尾昌樹

電話番号 042-341-2711(代表) e-mail:mstkakaobrb※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局

e-mail:ml_rinrijimu※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)